

個人山行報告書

通算山行NO	NO. 1439	報告者	後藤隆徳
年月日	2011年1月2日(日)～4日(火)	2万5千	甲斐駒ヶ岳
山名	甲斐駒ヶ岳(2967m)・仙丈ヶ岳(3033m)		
体力度=4・やや厳しい 技術度=4・やや難しい 道標=ある 駐車場=ある トイレ=駐車場ある 展望度=よい 三角点名=甲駒ヶ嶽(甲斐駒) 1等級			
<h2>相変わらず厳しいお山</h2>			
コースとタイム	2日目=北沢峠発5:40-駒津峰8:50-甲斐駒10:30~45-駒津峰12:15-仙水峠13:10-北沢峠14:25		
標高差	上り 北沢峠約2000m~甲斐駒ヶ岳2967m=約967m 下り "		
参加者	L 後藤隆徳、村山忠彦、加藤秀子(富士・山楽歩山の会)		



1日目(1月2日・日) 晴

5時下土狩発。快調に戸台を目指す。甲斐駒・仙丈ヶ岳の冬は、会では96年に6名で上っている。しかも北沢にテント泊。最高齢は、Sさんで当時65歳。仙丈ヶ岳は、1時起床、2時10発の記録が残っている。これは驚異と言うより他ならない。

甲斐駒は今年で3年連続だが、今年も小屋泊。もうテント泊は無理だろうか。長い河原

歩きを経て14時、15年振りの冬の北沢峠着。長衛荘は快適の一言だった。

2日目(1月3日・月) 快晴・-15度

今日は甲斐駒登山。小屋の朝食は3時でも4時でも対応してくれる。食事はオムスビが3個と味噌汁、焼き魚など。味噌汁はお替りOK。オムスビは食べ切れなければ持って行ける。いいアイデアだ。

また、若い管理人は奥様・子供二人の一家で11日まで滞在。小屋裏からまず双児山に向かう。トレースはあった。双児山を上り一旦下って駒津峰を目指す。森林限界を越えると背後に仙丈岳が迫る。仙丈岳は大きな山だ。駒津峰までひと上り。ここは風が冷たかった。

一旦下ってここから駒の上りが始まる。後にも先にも登山者は見当らない。年末の悪天候で下山した人が多い。

摩利支天峰経由のトラバースルートを選択したがトレースがない。直登ルートを上る。雪が多い岩場はイ



ヤらしい。下りは問題だ。厳しい直登ルートを行く。96年はどちらを上ったのか記憶がハッキリしない。右に横断し中央に伸びる稜を上る。背後にはアサヨ峰・北岳が大きくなった。

頂上の祠が見えた。程なく加藤・村山も登頂。村山は初めての甲斐駒が冬だった。苦しかったようだが頑張った。3年振りの快晴の頂上。360度の展望。風は弱いが気温は低い。

兎に角、動かないと寒いのですぐ下山。直登ルートはイヤらしいので、トラバースルートを下る。

途中、雪が多いと雪崩そうな斜面もあるが、問題はなかった。しばしのラッセルで直登ルート分岐にピッタリ合流。駒津峰から仙水峠経由で下山。こちらの方が往路より早い。仙水峠は特異な景観でよい所だが、風が強くととても寒い。北沢を下る。テント場のテントも減った。小屋管理人も最近、厳しい冬登山者が少なくなったと話していた。ここにも高齢化が及んでいるか。反面、夏山は異常な人気という。

小屋に帰着するとサッと暖かいお汁子を出してくれた。暖かくとても美味しかった。



3日目（1月4日・火）快晴・—18度

仙丈岳登山。4時30分発。今朝は昨朝以上に冷え込んだ。村山は休養。今日は戸台まで下るので時間に制約がある。暗い中、ヘッドランプの光芒が揺れる。時折、ゴ〜と風が梢を揺らす。厳しい上りが続く。それにしても今朝は寒い。何故、冬山に上るのか・・・自問自答。昨日の疲れもややあった。森林限界から小仙丈岳。頂きは遥かに遠い。今日はここまでとした。帰りの戸台川河原は長かった。



快晴の頂上

戸台川河原

